

新しきクリエイター

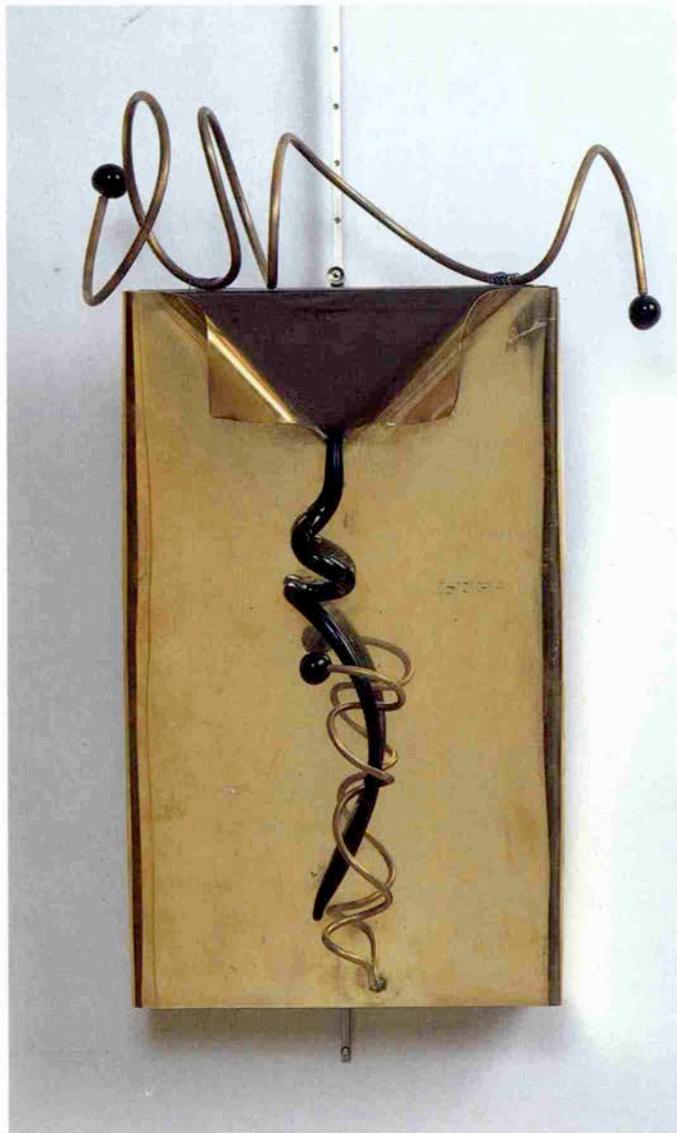
美の小箱

嘉納千紗子

文・赤根和生（美術評論家）

とにかく、色感豊か、色彩感覚抜群の作家である。しかも色彩の独走ではなく、フオ
ルと厳密に絡み合うところに、彼女の画家としての天与の資質がある。かつて、ドリッ
ピングのどろりとした感触に惹かれ、色塊の垂れ下がる量感たっぷりのマチュールに力
点をおいた作品を発表したことがあるが、それも偶然の効果に頼ったやつつけ仕事でな
く、周囲との絡みが実にうまく処理されていたが、その「技法の古さ」を指摘したら認め
て以後拘泥することなくすっぱりと止めた。その素直さがまたいい（大成するだろう）。
やりたいことを封じられると、とんでもないときにとび出したりするもの。だから気持
ちがのったときやつておくに如くはない。が、やってみることに発表して過渡期的しご
とを人目にさらすことは別のこと。

ところが、昨年のローズガーデン・コンテストでは、壁かけオブジェ（半立体）を發
表してみごとに受賞した。素材は真鍮と黒色ガラス。みごとに転換である。この自由さ
がいい。（いつも云うことながら、「変化こそ若さの象徴なりだ。」オブジェとはいいな
がら、手慣れた絵画性のみごとに生かされ、しかも実材の確かさは画にはない醍醐味で
あろう。しかも磨けば光るのも材質の娛しみ。彼女は、ジュウエルリ、アクセサリーも
手がけている。それがまたユニーク、オリジナル、それらのみごとに複合、統一なのだ。
材質の發言をききとり、表現を与え得る資質に恵まれた彼女は、さらに、ヨコもウラも
ある二次元空間に目覚めたら大きな立体も可能。先の楽しみも多いアーティストである。



アデュー (1989年)

嘉納 千紗子



- 1969年 山手女子短期大学芸術科油絵卒業
次元69展出品(京都市立美術館)
京都アンデパンダン展出品(京都市立美術館)
- 1971年 第56回二科展入選(東京都美術館)
(以後57、59、60、61、63、69、70、71回入選)
- 1986年 第10回ローズガーデン美術公募展入選
- 1988年 第12回ローズガーデン美術公募展入選
- 1989年 第13回ローズガーデン美術公募展佳作受賞

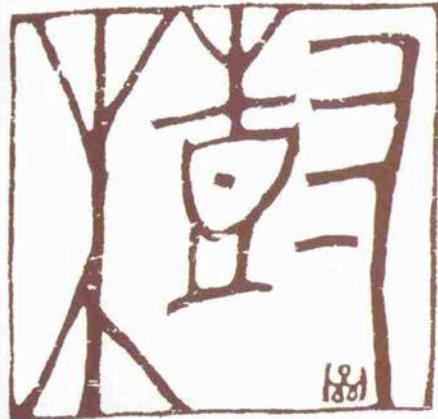
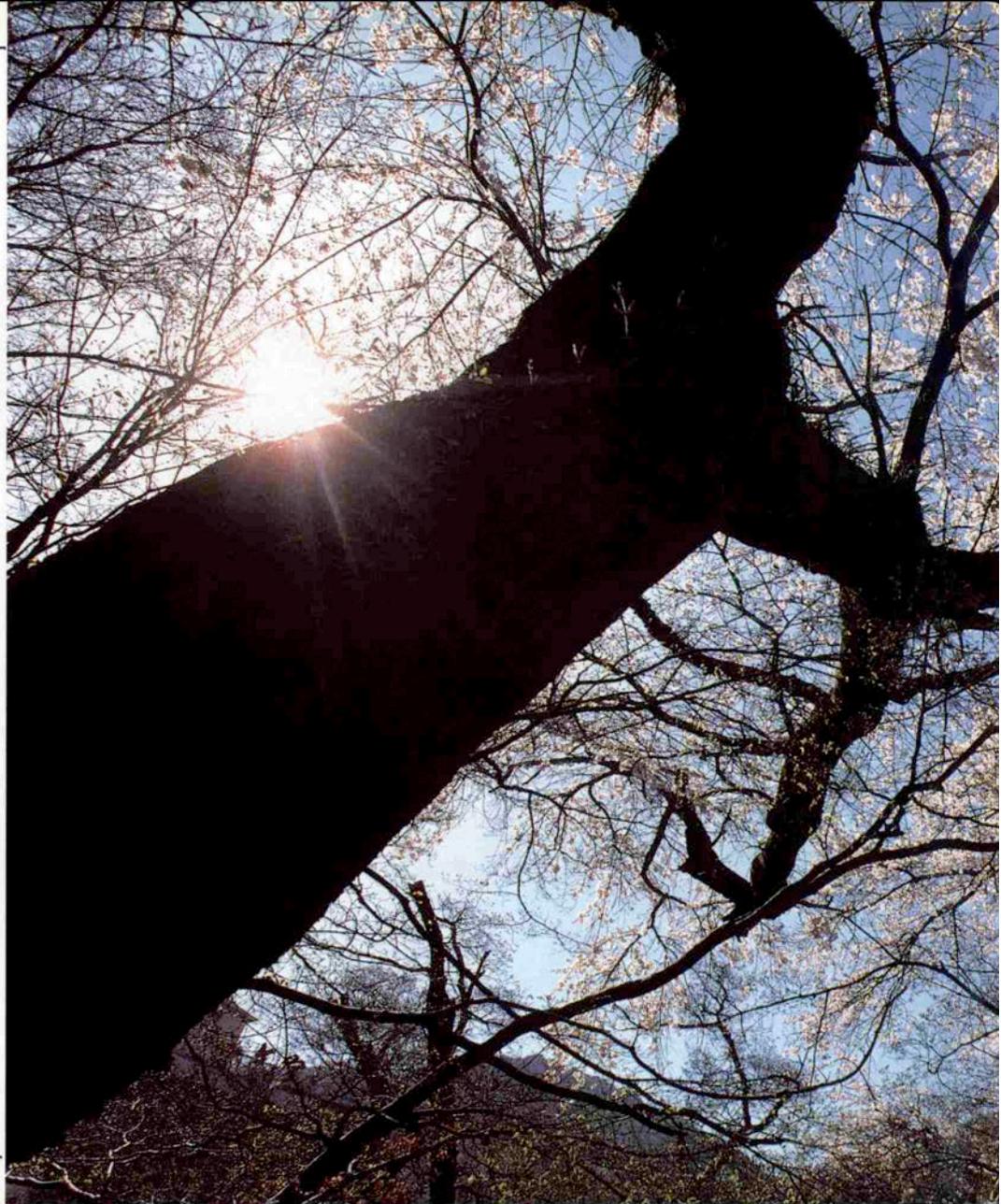


Photo Masao Kobayashi

神戸の名木

善福寺のごとくせいの



所在地 北区有馬町

□ 阪急バス 有馬町 南すぐ

門をくぐるとすぐ左に歌碑がある。境内の右に1本、左に三本の計4本が市民の木。

一片の花も仏の姿かな

無端

ジーニアス・ギャラリー4月20日(金)旧居留地にオープン。

1階から2階へ、街を散歩する気分で行ける「ジーニアス・ギャラリー」。15のショップの魅力もさることながら、その構造自体も他に例を見ないものです。1階の「ジーニアス・カフェ」「メゾン・デュ・ショコラ」のある空間は、まさにパリの街角そのもの。旧居留地の散歩道がまた広がります。

1F GENIUS CAFÉ

ジーニアス・カフェ

アラン・カレ自らがこだわりをもってデザインしたスノブなカフェ。まさにパリそのもの。

LA MAISON DU CHOCOLAT

メゾン・デュ・ショコラ

パリNo.1のチョコレート専門店。創業社長であり自ら職人でもあるランクス氏による味は最高。

ET VOUS

エ・ヴー

パリで最も人気の新しいカジュアルウェアショップ。パリ店そのままの雰囲気伝える日本第1号店。

EMERICH MEERSON

エメリック・メルソン

ウオッチコンセプトに新風を吹きこんだ注目のブランド。パリの香り高いブティックとして日本初上陸。

INTEREST ambivalence

インタレスト

単なる流行や便利さではない高感度生活を提案。オーダーメイドのファニチャーを中心に、全国初展開。

2F AUTOUR DU MONDE

オートール・デュ・モンド

世界を駆けめぐる探検家をイメージに、パリ本店と同じ展開。「サファリ」「マリン」「アウトドア」で構成。

STEFANEL

ステファネル

次代の欧州を代表する担い手。イタリアンニットを中心に、日本を代表するステファネルショップ。

2F CIMARRON

シマロン

スペインの香りのするジーニングカジュアルウェアとしてパリで注目のショップ。初の日本本格展開。

NARA CAMICHE

ナラ・カミーチ

シャツとブラウスのオリジナルコレクションが欧州で評判。ミラノ本店の雰囲気そのままにオープン。

JACKAROO

ジャックaroo

「女は女らしく」「男は男らしく」大人の日常着としてパリで絶大な人気。本格的展開は神戸が初。

MULBERRY

マルベリー

英国カントリーライフの貴族趣味へのこだわり、素材の良さで世界にファン。日本3店舗目の直営店。

BENETTON

ベネトン

世界最大のニットメーカーに成長したユナイテッド・カラー・オブ・ベネトン。神戸最大規模でオープン。

COLE HAAN

コール・ハーン

最高の技術と品質を追求した統づくり。日本では第3店舗目のオンリーショップです。

AIGLE

エーグル

欧州の伝統的スポーツには欠かせないアウトドア&グッズのトータルブランド。本格展開は日本初。

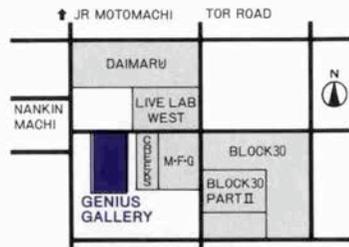
HENRY COTTON'S

ヘンリー・コットンズ

イタリアからの「インターナショナルトラッド」。昨夏オープンしたパリ店は世界中の話題を集めました。



- ジーニアス・ギャラリーは、なにもかもが、いままでのファッションスペースと異なります。
- ジーニアス・ギャラリーは、建物もユニーク。設計は、パリを代表するデザイナー、アラン・カレ氏。
- ジーニアスの名の由来は、「パステルユ広場の「自由の天使像」。パリ最高の雰囲気を伝えます。



11:00AM~8:00PM(1Fカフェ10:00AM~8:00PM)水曜定休



DAIMARU KOBE

電話(078)331-8121(水曜定休)

1~4階・地1階は7時まで営業

5階~屋上・地2階は6時30分まで営業



GENIUS GALLERY

あなたの、神戸です。



緑の降る午後

神戸・北野町の静かな住宅街に、ジャン・ムーランは移転、一軒家のレストランとして新しくオープン致しました。吹き抜けるのゆったりとしたお部屋での満ちたりたお食事とおしゃべり、食後はお庭を散歩されたりと、きっと豊かな時間を過ごしていただけると思います。

フランス料理レストラン ジャン・ムーラン

- 営業時間 / a.m.11:30 ~ p.m.2:00
p.m.5:00 ~ p.m.10:00
- 定休日 / 第3水曜日(祝日の場合は翌日)
- 15名さままでのグループのお客さまには、お2所に落ち着いてお食事をお楽しみいただける個室をご用意致しました。

ヨーロッパの豊かな歴史と伝統を継承した高級ホテル



<16F>バルセロナ Barcelona



HOTEL GAUFRES RITZ
KOBEPiA

ホテルゴーフルリッツ

神戸 夙月堂 港島

ご予約
お問い合わせ ☎(078)303-5555

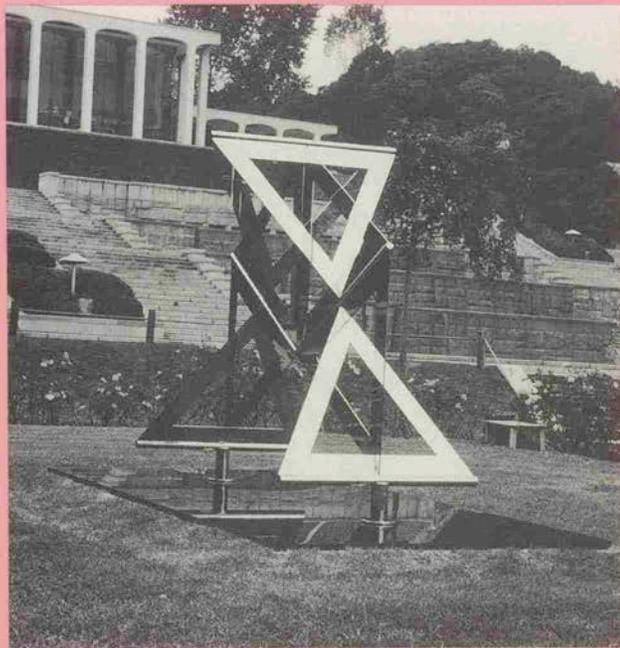
〒650 神戸市中央区港島中町6丁目1番

(ポートライナー市民広場駅下車北へ、商工会議所とツインビル)



これは神戸を愛する人々の雑誌です
 あなたのくらしに楽しい夢をおくる
 神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
 これは神戸っ子の心の手帖です

4月号目次 ● 1990・No.348



TWIST-360°
 (須磨離宮公園)
 作・松本 薫

- 表紙／(故)小磯良平
 セカンドカバー／西村功
 11 神戸っ子90／室田純子・東裕典
 14 ある集い／婦人有権者連盟・神戸YWCA
 17 コウベスナップ／ジャパニーズドリーム号・燕京号・にっぽん丸
 18 美の小箱／絵・嘉納千紗子 文・赤根和生
 20 神戸の名木(1)／カメラ・小林政夫
 31 私の意見／佐野雄一郎
 33 随想四題／原口正義・田中紀子・戎洋子・鈴木漢
 36 地域文化論／水谷順介
 38 連載エッセイ／三枝和子
 40 私と神戸①／軒上治
 42 神戸文学夜話／市居義彬
 44 トランペット片手にブラジルー人歩き／右近雅夫
 48 特集①神戸ファッション最前線100人選考座談会／
 川上勉、福富芳美、松谷富士男、芹澤豊男、荒津正美、中西省伍、藤本ハルミ
 53 経済ポケットジャーナル
 54 特集②神戸ファッション最前線100人
 66 キャンペーン座談会／90年代の神戸ファッションを考える
 中村一夫、岩田 明、井上真由美、丹野最世子、田仲留美子、前川治美
 72 OHTタカラヅカ座談会／植田紳爾、大浦みずき、ひびき美都
 76 ファッションスポット
 84 神戸のお嬢さん／林恭子、佐々木可奈
 86 田村孝之介を語るー中西 勝
 104 もうさんの兵庫ウォーク／こころ豊かな兵庫をめざして
 コーヒーブレイク
 114 動物園飼育日記／ゾウの動物園史(8)・亀井一成
 118 街のおしゃべりー(さんちか、トアロード、元町、大丸前、北野、オーバ)
 124 話題のひろば／友生養護学校ボーリング大会・神戸商大シルクロード展
 126 ふたたびプロフェッサーの研究室／岡田 淳
 128 神戸を福祉の街に／橋本 明
 130 神戸の集いから／女流陶芸家展・
 131 K.F.S.ニュース
 132 有馬歳時記／湯けむり訪人録・覚前政幸氏を訪ねて
 神戸百店会だより
 136 モダンカルチャー
 140 シネマ試写室／「いまを生きる」・淀川長治
 142 びっといん
 144 ポケットジャーナル
 147 神戸っ子倶楽部会員情報
 148 るぼるたーじゅ神戸／第1回国際宝飾展(於 幕張メッセ)
 文・有井基／写真・米田定蔵
 152 神戸文学賞佳作受賞作品①夏の遠景／文・伊々田 桃
 157 神戸っ子倶楽部会員情報
 174 ちょっとたたずんで／街角の花③ソメイヨシノ・平畑政幸
 176 海船港／神戸ー横浜ジャパニーズ・ドリーム号就航
 目次作品ー松本薫
 カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也・森田篤志

月刊神戸っ子創刊29周年記念
第19回

ブルーメール賞表彰式

平成2年度

神戸酒徒番附表彰式

4月17日(火)

PM5:30開場 PM6:00開演

神戸ポートピアホテル

「音楽の間」

TEL 078-302-1111 ポートライナー市民広場駅下車

会費 一般 15,000円 神戸っ子倶楽部会員 14,000円

★ショータイム★

鳳蘭



その華麗なる
世界

主催 月刊神戸っ子

後援 神戸百店会

お問合せ 月刊神戸っ子

神戸市中央区東町113-1大神ビル9F
TEL 078-331-2246



'90
世界の
酒祭り

SPRING COLLECTION



メリーヒル
 ゲルラン
 ポンフカヤ
 シス
 ルーブル・
 ブライダルサロン

ダイアナ
 オフ
 クロードレマ
 タカノ
 ココ山岡
 三愛

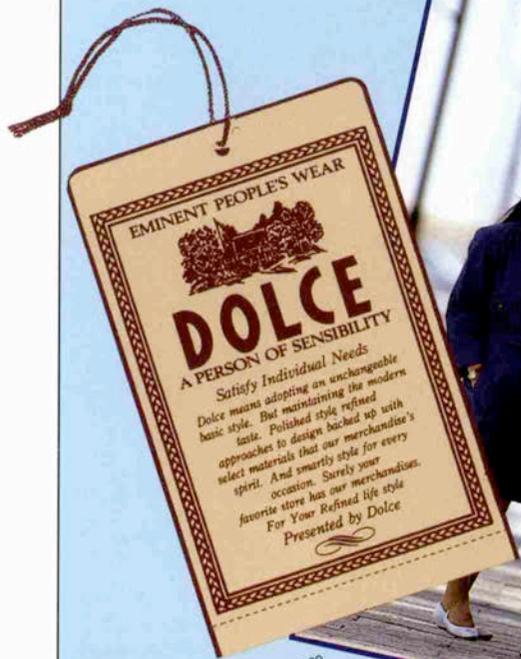
キャンディッド・マス
 メイソングレー
 フォーセット
 ベネトン
 ラッキーズ
 ハニーハウス
 イーストボーイ
 靴下屋
 フェアリー
 リップスター
 ベイトンブレイス
 ヴィフ
 バルチザン
 クレヨン
 マリークワント

アラブグレッツ
 トウエンティワン
 ミシュール・エタム
 Aug
 リーフノット
 アトモスフェール
 ヴィッキー
 カボ
 キャトルセゾン
 ハウスオブローゼ
 ワコール
 トリンブ
 ランパブル
 ミセラシ
 シエル

FASHION PARK

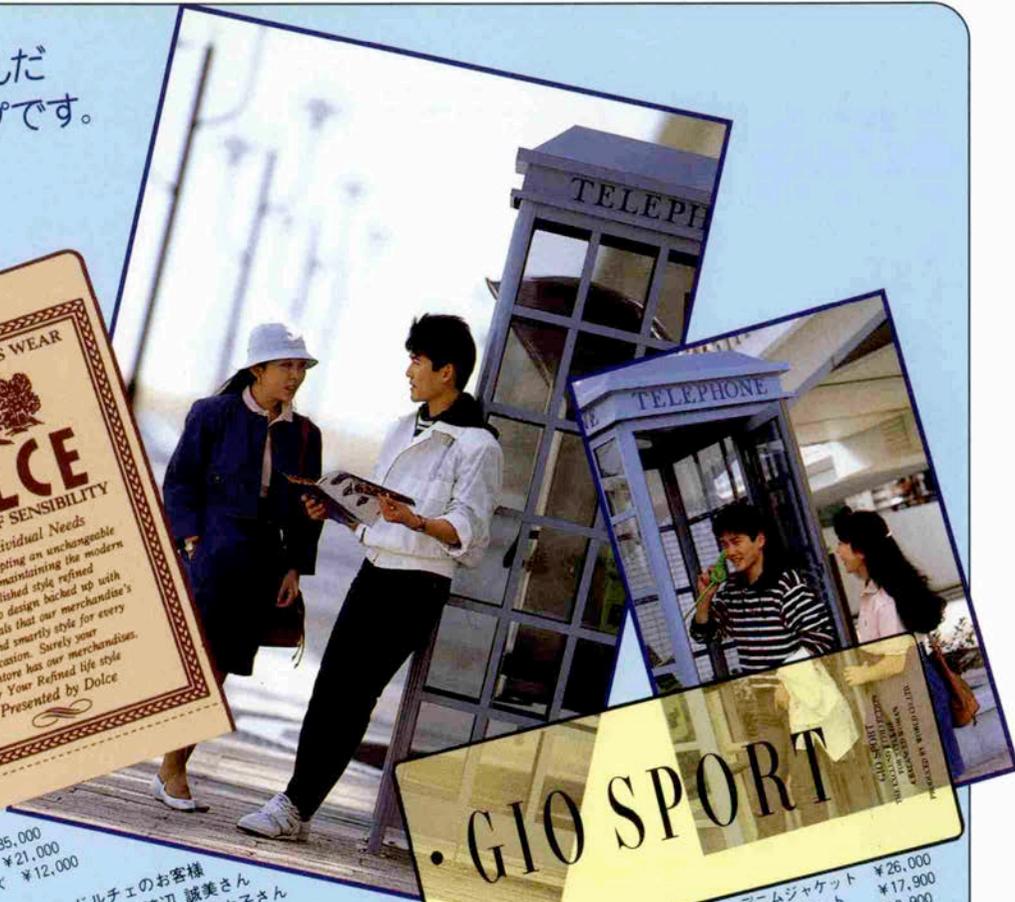
神戸・三宮、さんプラザ2・3F
 センタープラザ3F
 営業時間 am 11:00—pm 8:00
 PHONE—078・332・1698

2人の選んだ
ショップです。



MEN'S
ブルゾン ¥35,000
ヨットパーカー ¥21,000
ジーンズ ¥12,000

ドルチェのお客様
渡辺 誠美さん
大西 由子さん



• GIO SPORT

LADY'S

デニムジャケット ¥26,000
タイトスカート ¥17,900
ボロ ¥8,900



MAC
SINCE 1895 KOBE

HEAD OFFICE 7F NEW CENTER 1-6-22/SANNOMIYA-CHO CHUO-KU KOBE CITY 078-392-1651
SANNOMIYA MAC
THE BLAZER SHOP MAC
DOLCE MAC
FESTA MAC
BENETON MAC
FUJUIDAIMARU MAC
SUNVIOLA MAC
PLENTY MAC
SANNOMIYA CENTER-GAI 1 078-391-0895
TOR-ROAD 078-391-0896
SANNOMIYA CENTER-GAI 2 078-332-0141
HIMEJI FESTA 2F 0792-89-4738
HIMEJI FESTA 3F 0792-22-1333
KYOTO FUJUIDAIMARU 2F 075-211-0857
TAKARAZUKA SUNVIOLA 3F 0797-71-4830
SEISIN PLENTY 2F 078-992-0088

□わたしの意見

市民のふれあいから 六甲アイランドの 街づくりを

佐野雄一郎

△神戸新交通株式会社社長▽



私どもが建設を進めて参りました新交通六甲アイランド線「六甲ライナー」は、去る二月二十一日に開通いたしました。六甲アイランドの唯一の公共輸送機関としての使命にお応えし、ポーターライナー共々皆さんに親しまれるよう会社一丸となって努力して参る所存であります。

さて、六甲アイランドでは、二千戸の住民の生活が始まり、また、アイランドセンター駅を中心に世界に開かれた新しいビジネス環境が誕生しようとしています。世界のファッション関連企業五百社を集めた神戸ファッションマート、先端情報システムを導入したインテリジェントビル、コンベンション都市にふさわしい超高層ホテル、グルメビル、リバーモールや水辺店舗等のオアシス空間、総合病院等の施設が平成三年度以降順次オープンが予定され、着実に魅力的な街づくりが進んでいます。

このように街づくりが進む中で弊社としても六甲アイランドの街づくり、イメーリアップに貢献していきたいと考えています。そのためには、ハード面の整備はもちろんのことですが、重要な要素として街のにぎわいが必要で、人の集まらない街に発展・成長はありません。二月二十五日には、ファミリーマソン大会を行い、参加者、家族を含め、五千人の方々が賑わいましたが、これは六甲ライナー、六甲アイランドのお披露目以外に島内の住民の方々と既成市街地の住民の方々と親しくを深めてもらい、街のにぎわいの一助となることを目的としていました。今後、リバーモールや六甲アイランドイベント広場等の、絶好のロケーションを利用したイベントをきっかけとして様々な市民のふれあいが生まれ、この中から街のにぎわいが定着してゆけば、六甲アイランドは素晴らしい街となっていくでしょう。

また、私どもは住民の方々や六甲アイランドを訪れた市民の方々に楽しみ、憩える施設を提供できるよう六甲ライナー沿線を中心に検討しています。多くの方が六甲アイランドを訪れ、このことが六甲アイランドの街づくりに繋がることを期待しています。

KAKINUMA GALLERY



春

御手洗 佑美・作

(チャイナペインティング)
手描き陶器

IPA 会員 (アメリカ)
WOCF 会員 (アメリカ)
JPPA 会員 (日本)

シルバーメタリックを使って春の喜びを表現しました。
サイドテーブルの天板部分です。むらなく色を掃く技
術と、何度も描いては焼くことをマスターするには相当
年季がかかります。御手洗佑美展示会はホテルオークラ
桜の間で5/17~5/19までしています。

(柿沼産婦人科に展示4/1~4/30)

麓 柿沼産婦人科

★健保適用 産婦人科・内科(女性専科)

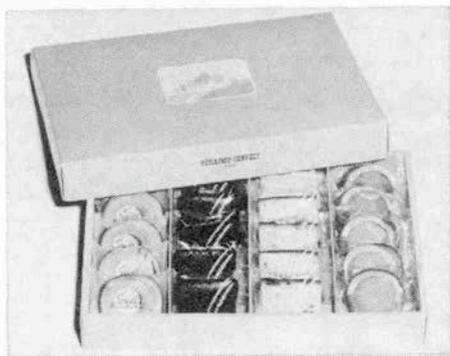


阪神芦屋駅北へ1分・芦屋警察署東隣り

☎ (0797) 31-1234 (FAX兼用)

当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

Quartet



春の訪れとともに“カルテット”を

- マドレーヌ ○スモールバウムクーヘン
- トランシュ(オレンジ・チョコレート)

— 北 欧 の 銘 菓 —
2-ハイム・コンフェクト

随想 四題



市立博物館（原口正義・画）

神戸と絵

原口 正義

〈画家〉



神戸の街を歩くと思わぬ所に異国風の古い建物が建っていた。九州から出てきた田舎者の私にとってこれらのものに出会えることが大きな楽しみとなった。

20年前、北野町はまだひっそりとしていて今みたいな観光コースではなく、訪れる人はまばらで点々とある異人館を見つけて歩く時は胸が踊った。その異国のおいは段々私の頭や手にしみこんでいき、イラストレーターめざして神戸へ出てきたはずが、いつの間にか画家になる夢へ変っていった。自分の時間欲しさに会社の残業は一切しないことにし、前にも増し

て神戸の街中をくまなく歩くようになった。時々、イーゼルを立てて油絵を描いていたおじいさんがいたが、後で展覧会に行った時、小松先生であったことを知った。

あんなふうに道端で絵の具で描くことは余程の勇氣がいる。私は人目を気にしながらスケッチブックを広げるのがやっとながたが、そのうち慣れてきた。こんなに絵に描ける所があるのに、スケッチなどをしてる人をほとんど見かけないのはなぜだろうと思う。私の田舎だと田んぼと民家の他何もないので、余計神戸の素晴らしさが目についた。

海岸通りには異人館とはまた違った趣きの、重厚な建物が建っている。繁華街から抜け出してこのあたりに来ると、ドッシリとした落ち着いた中に安らぎがある。人々が繁華街にばかり疲れながらひしめかないで、ちよっとばか

りこのあたりへ来て散策してくれたらどれほど気分は落ち着くかと思う。その点で博物館は成功している。兵庫運河へ行き、橋の上から沈む夕陽に染まる運河を見ていると、たまらない懐しさを味わいたいものがこみあげてくる。

兵庫や長田の街並みを歩くとふと公園があり、これも太陽を浴びたベンチには、たわむれる子供たちの姿を眺め、町工場から聞こえてくる機械の音を聞きながらお年寄りたちが坐っている。

消費社会という車に乗り遅れないように、また競争社会という車にひかれぬように走り続ける人生はとでもしんどい。長い年月を経できたものたちを愛し、何かに利用しながら護っていくことは、失くしかけていく心を取り戻すことに大きく結びつくと思う。私はこの心を伝えることができればと願いながら絵を描いていこうと思う。

詩への目線について

田中 紀子

〈詩人〉

第10回ブルーメーリング賞
文学部門受賞者



画家のポール・デルポールの「絵を描いている間中、私はその絵を体験しているのです。描き終えた

時、私にとつては一つの物語が終わってしまふので、残念でなりません」と言うのを読んで、私は、昨年一月に豹樹企画から上梓した詩集「ジャカルタ」のあとがきを書いていた時のことを、改めて思い起こす。そのあとがきとは「言葉の増殖のうちに経験すること、そして、その果ての思いもかけない他者の発見に満たされながら、詩を書いてきました。……」というものでした。

さきのポール・デルポーの文章の前後の脈絡もわからない抜き書きを読んだくらいで、ああそうかなどと言うのは早計だが、絵も詩も行為としては同質のものなのかもしれない。

例えば絵を見ていて、どうしてもうまく入り込めない作品と、包み込まれるようにして入って行ける作品がある。それは「わかる」というような次元の事柄ではなく描かれてある色・形を手掛りにして、見る側が自身の旅に出て行けるかどうか・というようなことだと思ふ。

そしてそれはもちろん、時間的空間的制約を解かれた生な世界で又これまで実際に出会ひ、心の底深く澱のように沈んでいる悲しみも不安も喜びさえ、苦しいくらい新たな未知の色彩を帯びて、鮮やかに旅する人に迫ってくる。そう

して、旅の終わりに思いもかけない他者としての自分に出会う。

描いた側と見る側はそんなふうにして共に旅をして行けるものだと思う。色・形を言葉に置き換えたところで、私は、その未知の旅を思つてあとがきを書いていた。

ただ、△思いもかけない他者▽という言葉について、最近少しずつ目線がゆれてきているのを感じている。「ジャカルタ」の時点では△他者▽とは、新たな経験をとうして他者として新たに生まれたまさしく自分自分であったはずだが。「ジャカルタ」以後、どうしても今までのように書いたのでは自分で自分の詩に違和感がある。一つの安定した世界から放り出されたようなたよりない気分で、色々な方法で書きつづけてはいる。目線のゆれということと、この違和感とは同じことなのだとわかつてはいるのだが。

今、△他者▽と△自己▽という対立の場ではなく、もつとゆるやかな存在に、身を置いてみたいと思つているのかもしれない。

ピアノと仲間達

戒 洋子

△ピアノリスト▽

第19回ブルーメール賞

音楽部門受賞者



ふと目が覚めると、部屋の中ではコーヒーのいい香りと、モーツアルトが聞こえている。窓から朝のやさしい陽が差し込み、緑の風が白いカーテンをそつとゆらす。と、まあ、こういう状況で朝が来ればいいのだけども。モーツアルトは何かか実現したとしても、コーヒーはだれがいられてくれるの？窓の外から林も森もいや庭さえなののに、どうして緑の風が吹くの？とボヤキながらいつものように財布一つ持って、一階の喫茶店にモーニングを食べに降りて行く。そして漫画家のモーリさんと鳥や魚や石の話をしたり、毎朝同じ席で新聞を読んでいる渡辺さんや私の隣の部屋で建築の設計をしている藤原さん（私は彼のコピーとファックスの機械を、自分のもののように使わせていただいている）達とコーヒーを飲む。夜は夜で、その相手は魚屋の光ちゃんや、みんなから「近鉄さん」と呼ばれているトラックの運転手さんや、その人達の集まる小さな飲み屋さんの主人である城戸さんとかに代わる。その誰もが、私の美しい△イヴニング姿を知らない。彼らは、ピアノというのは、深窓の令嬢が優雅に弾くものと思つている。城戸さんの店にそんなピアノリストが来るはずはないと思つている。みんな、ピアノはそんな優雅にやれるもんじゃないんだよ。

ほとんど体操選手の如く一日も休まず練習し、「職業選択の自由」も与えられず、毎日、白黒の鍵盤と、暗号の様な楽譜を見つけて、ほとんど悲惨な青春を送るんだから、ピアノなんて面白くないと思いはじめた頃、作曲家の林光さんに出会った。彼は私の苦勞していた、パッセージをサツと弾き、「これは風なんだよね。」と笑っている。その一言で私はそれまで、縛られ続けてきたピアノから解放されたような気がする。それ以来、もう十何年も私はピアニストになろうとは思わなくなった。ピアノを弾くのが目的ではなく、たまたまピアノで何かを表現する、話す、笑う、泣く……。そうしたら、あんなに偉そうにしていたモーツァルトともちよつとした友達にもなれたし、シューマンも気むづかしいけど、つきあっていけそう。私は今、音楽を、することがとても楽しい。おまけにこんなステキな賞もいただいた。今日もモーリさんは漫画を描いて、近鉄さんはトラックを運転して、そして私はピアノを弾いている。

対話する詩、連句

鈴木 漢

（詩人）



最近のこと、「海市帖」と題する連句集（編著）を刊行する機会に恵まれた。連句、といつても、隆盛をきわめる俳句や短歌と較べて、一般には馴染みが薄いであろうか。

たまたま昨年は、芭蕉の「おくのほそ道」巡遊三〇〇周年にあつたが、芭蕉や蕪村の時代、連句は大いにもはやされ、人々に最も愛された詩の形式だったのである。私たちは現代の感覚で、たとえば芭蕉や蕪村を単に俳句形式の詩人と考えがちだが、ほんとうは連句形式にあつてこそ彼らの真骨頂は発揮された、と言つてさしかえないだろう。短歌や俳句が、いわば一人称の短詩型であるのに対して、連句は、複数の人々が対話を交しながら構成していく、ポリフォニーによる共同制作詩なのである。

そしてまた、個々の作者名にはこだわらない、きわめて無名性の濃い共同作品であるがゆえに、明治・大正・昭和と、近代の自我が大きく育つていく時代背景にあつては、等閑視される運命にあつたかも知れない。相対的に、自我を表現する短歌や現代俳句の隆盛があつた、と見なすこともできると思うのである。しかし今になってようやく、自我にとらわれる態の表現形式は、総じて袋小路へ向か

つていると言えないだろうか。人々は、対話を望んでいるのだ。対話詩ともいふべき連句が見直されずこしずつ復権の気運が高まっているゆえんである。ただ、歌人俳人よりもむしろ、作家や詩人の間に熱心な支持者が多いのはなぜだろう。とかく写生を重んじてきた近代の短歌や俳句と異なって、連句の場合は、想像力を駆使しながら制作する、虚構（フィクション）の要素の多いことが原因であるかも知れない。

想像力。大いに結構ではないか。言葉は、意味としてあるいは伝達手段として消費されるだけでは瘦せ細るだろう。想像力の富を言葉に、不断に還元することが肝要だと思ふのである。そんな意味からも、人々の間で連句がもつともっと盛んに試みられることを望みたい。

蛇足ながら、連句集のタイトルとした「海市」は、海上に出現するまぼろしの都市・蜃気楼の謂である。私が棲んでいるポルトアイランドの印象に、半ばは由来している。

（連句集「海市帖」は高槻市登美の里町十七の一 書肆季節社刊 一八〇〇円）

アジアのなかでの 神戸のホテルの由来

水谷 頴介（都市計画家・建築家）

シンガポールで、「Grand Oriental Hotels from Cairo to Tokyo 1800~1939」という豪華本を買ってきた。タイトルどおり、一八〇〇年から一九三九年までに建てられた東洋の有名ホテルのありし日の名場面が記録されていて、心がひかれる。

産業革命以後の都市の社交場としてのホテルが鉄道駅とつながったロンドンのパディングトン駅とグレートウエスタンホテル（一八五二〜五四）というかたちや、ニューヨークのシティホテル（一七九四〜九五）というグランドホテ



1887年に建てられたチャオプラヤ河沿いのオリエンタルホテル旧館は現在もお保存されている。このあたりの昔の建築群がまだ利用されている姿は、喧嘩のバンコクのなかで情緒を感じさせる。

ルの原型が、一八八四年のオリエンタル急行や一八六九年のスエズ運河開通によって、欧米人のオリエンタリズムとともに拡張していく姿を、そのコロニアルスタイルなどの建築とともに追っている。

カイロのシェファード、インド・ウダイプールのレイクパレス、ボンベイのタジマハール、バンコクのオリエンタル、シンガポールのラッフルズ、マニラホテル、香港のベニユシユラ、上海のキャセイなどは、昔の白黒写真と現在のカラー写真で対比されている。私自身が見聞きできたレイクパレスは増築や改装で味が失われたようだったし、タジマハールは増築部分が高々とそびえ、オリエンタルも新築部分のデザインが固く、ラッフルズはいま保存・修復中での結果が期待ぶかく、ベニユシユラは日本の買物客でこったがえし、キャセイ（平和飯店）の戦前以来のジャズマンに年を問うと七十六才だと言っていた、などを思い出しながら、やはり伝統のホテルは近頃のツルツルピカピカよりは、ずっとなんという気分が伝わ

ってくる。

日本の記載は、熱海ホテル、神戸は居留地の HIGGO HOTEL とオリエンタルとトリアホテル、京都ホテル、富士屋ホテル、奈良ホテル、金谷ホテル、大阪ホテル、春帆楼、赤坂プリンス、雅叙園、帝国、東京ステーション、山田ホテル（宇治山田）、横浜グランド、である。そして、サマセット・モームと同じくラッフルズにも宿泊したキプリングが神戸オリエンタルでの食事のよき思い出を記した「オリエンタルホテルの家主であったすてきなベゴウ氏へのほめことばを幸せそうにしやべつてくれた。ここは、貴方が食事をとるのにふさわしい場所です。私はベナンのオリエンタルホテルでほんとに珍しいカレーを食べたこともある。シンガポールのラッフルズで海がめのステーキも忘れられない思い出に残っている。また、香港のビクトリアでのチキンレバーと子豚の丸焼きもしばしば美味しかった。しかし、神戸のオリエンタルは、この三つよりすばらしかった」(From Sea to Sea 一八九九)を引用してくれている。

持って帰るのに重かったが、よき時代の神戸、ひろくオリエンタリズムのなかでの神戸を実感させてくれる本が入ってうれしかった。

HEIDESAND

ハイデザート



香り高い発酵バターを使い、
ナッツやチョコレートを
限界までたっぷりに入れて焼き上げた
ビスケットの名作です。
優雅な味わいの深さに、感動が広がります。

¥ 500(10包入) ¥2,000(40包入)
¥3,000(60包入) ¥5,000(100包入)



ユ-ハイム

※記載しております価格は、消費税抜きの価格です。



ママといっしょに



赤ちゃん：山本 千絵ちゃん <平成元年8月12日生>
千晶ちゃん

ママ：依子さん 長田区在住
「パパ似の二人。今からどんな人のお嫁さんになるのかなあ？ってパパと話しています。素敵な女性になってね。」

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15
☎575-1024(病室☎576-9639)
市バス上沢4停南スグ

ときどきは絵のはなし

三枝和子(作家)

え・元永定正

暖かくなると、見たいなあ、と思う絵がある。
サンドリニの壁画『春』である。

『春』というのは、後世の人が勝手につけた名である。ギリシア・アテネの考古学博物館の二階の一面に保存されていて、私は一年のうち、少なくとも七、八回は眺めに行く。BC一五、六〇〇年頃のものと推定されている。

美術品ではなく、文化遺産だから、誰も所有できないけれども、所有したい、などという意識を吹き飛ばす大らかな力も持っている。別に研究することがあって、ギリシアには一年のうち三、四回出かけて、半月ばかり滞在する生活を、ここ二、三年続けているが、滞在中、必ず二回は考古学博物館に出かけて行って、このサンドリニの『春』の前に立つ。

花が咲いて、ツバメが、二羽、一羽、一羽、二羽、と飛びかっ、ああ、いいな、いいな、いいなあ、と溜め息をついて帰って来る。特にツバメがいいのだ。日本画のような柔らかなタッチで、さりと描かれているが、凄いいリアリズムである。あの時代に、このような匠がいたのだろうか、目を瞪るばかり、高度な技術が駆使されている。

保存状態がすこぶる良好なのは、この壁画の出土したサンドリニの古代の町が、最近まで火山の爆発(と推察されるのだが)のために埋もれていたからだ。発掘は一九六七年に始まったばかりと聞いている。

一昨年は、執着のあまり、その発掘現場というものを見に行った。シーズン・オフを狙ったのだが、狙いが当り過ぎて、一つしか開いていなかったホテルは、暖房が夜の十時になると消えてしまい、日本から持参のホッカロンを三つ、足許にこたつ代りにおいて震えながら寝た。

しかし遺跡には人っ子一人いなくて、案内人は私一人のために、ゆっくりと町なかを説明してくれた。言葉がよく出来ないのに、プランを片手に、『春』のフレスコのところへ連れて行ってくれと頼んで現場を確認して来た。発掘は経済的理由とかで一時中止の状態だったが、何か大きな町が出て来そうな予感にぞくぞくした。

発掘現場を確認して来てから『春』の前に立つと、またいちだんと趣きがある。これは『春』について、ではなかったけれども、関連してミノア文明についてある新聞に書いたとき、私は『春』

は、ひょっとして女性の手になるものではないか、という仮説を出した。もちろん何の証拠があるわけでもないけれど、画面が語りかけて来る優しさと、古代はみんなそうだったろうが、その徹底した無名性と、それに何よりミノア文明の持つ非戦闘的性格から、そう判断したのである。同じようなツバメや花は同時に出土した壺の類にも見事に描かれていて、なかには、壺そのものが鳥の形をしたものもある。それは鳩を思わず胸の盛りあがったスタイルで、その盛りあがった部分に人間のオッパイを描き入れているほほえましいものである。

金余り現象とかで、現在、日本は空前の絵画ブームだそうである。この景気はあと二、三年は続くでしょう、と、先だってもあるテレビで画商さ



んたちがニンマリしていた。日本人によるヨーロッパ名画のせり落しも、すでに幾つか報道されている。文化にかかわることだから、こうした現象は無いよりは、ある方がいいにきまっている。戦争が始まって、ピカソ一枚よりミサイル爆撃機一機を、などと言いつつ時代が到来するよりは、よほど善いことにちがいはないのだが、それでも名画が次々と個人の所有に帰して行く有様を眺めていると、貧乏人のひがみからかもしれないが、とても寂しい気がする。

文化遺産と個人の所有である美術品の境界がどのあたりにあるのか、難しい問題だが、王侯貴族の子孫たちの所有している美術品の行方と共に、気にかかる話である。もちろん個人の所有である美術品も、展覧会とかに出品されると、時折は展示されているもののように、いつでもどちらの都合で会いに行くというわけにはいかない。展示物の下に、何某氏の所有であることが明記されている絵なんか、「ああ、そうなの」というわけで、あんまり親しみが湧かないのも不思議である。

それに引きかえ、サンドリニの『春』に出会いに行くときは、それがよその国のものなのに、五百ドラクマ払って、まるで自分のもののような気分になる。五百ドラクマというのは、為替の変動はあるが、四百七、八十円ぐらいだろうか。しかしギリシア人たちには国立博物館の入場料はただと聞くと、ああ、それじゃ自分たちのもの、気分を満喫しているんだと羨ましくなる。我が国では、そんなふうには所有欲を満足させてくれる文化遺産は一つもない。